

労働力調査の 2023 年における変更点

労働力調査の 2023 年における変更点は以下のものが挙げられる。

- 1 季節調整値の算出方法に関する変更
- 2 層化抽出方法の変更

それぞれの具体的な内容については以下のとおりである。

1 季節調整値の算出方法に関する変更

労働力調査では、毎年 1 月分結果公表時に季節調整値の改定を行っている。

主要系列については、2013 年 1 月から reg-ARIMA モデルを導入しており、毎年の改定時に reg-ARIMA モデルを検証している。2023 年における改定では、reg-ARIMA モデルの一部変更を行った。

詳細については、次ページを参照

2 層化抽出方法の変更

2020 年国勢調査に基づく層化基準の見直しの際に、換算世帯数を算出するための単身世帯の換算率を $1/3$ から $1/2.5$ に変更している。また、これによる調査対象数の減少を回避するため、ウェイト算出に用いる基本数を 15 から 16 に変更している。なお、切替えは 2023 年 5 月以降順次行われ、2024 年 8 月に完了する。

詳細については、ホームページに掲載している「標本設計の解説」を参照

労働力調査の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更について（2023年改定）

労働力調査では、毎年1月分結果公表時に季節調整値の改定を行っています。主要系列については、2013年1月から reg-ARIMA モデルを導入しており、毎年の改定時に reg-ARIMA モデルを検証しています。

2023年における季節調整値の改定（2023年3月3日公表予定）では、主要系列の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更を行います。

労働力調査では、毎月、季節変動を除いた季節調整値を計算し、公表しています。この季節変動の除去は、原数値を季節指数（各月の季節変動のパターンを表す数値）で除すことにより行っています。そして、毎年1月分結果公表時には、直近の季節パターンを的確に反映させるため、過去の時系列データに前年12か月分のデータを追加し、最大で過去29年分のデータを用いた遡及計算を行い、当年に適用する推計季節指数を算出するとともに、直近の10年分の結果を改定しています。

2023年における季節調整値の改定（2023年3月3日公表予定）では、主要系列の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更を行います。

主要系列の季節調整法における reg-ARIMA モデルの一部変更

労働力調査では、季節調整値のうち主要系列について、2013年1月分結果公表時から X-12-ARIMA における reg-ARIMA モデルを導入しています。毎年の改定時に、主要系列における reg-ARIMA モデルの見直しを行っています。

今回の見直しの結果、2023年1月分結果から採用する reg-ARIMA モデルは、別紙のとおりとします。24系列中 8系列の ARIMA モデルを変更します。

表 2023年1月分から適用する reg-ARIMA モデル

		回帰変数 (種類・期間)	ARIMAモデル	旧モデル
労働力 人口	男女計	LS2011.3 LS2020.4	<u>(211)</u> (212)	(211) (012)
	男	TL2020.4-2020.6	(012) (111)	
	女	LS2011.3 LS2020.4	(012) (012)	
就業者	男女計	LS2009.3 LS2011.3 LS2020.4	(111) (012)	
	男	LS2009.3 LS2020.4	(111) (012)	
	女	LS2009.3 LS2020.4	<u>(012)</u> (012)	(211) (012)
雇用者	男女計	LS2009.3 LS2011.3 LS2020.4	<u>(211)</u> (012)	(111) (012)
	男	LS2009.3 LS2020.4	(012) (111)	
	女	LS2009.3 LS2011.3 LS2020.4	<u>(012)</u> (012)	(012) (112)
正規の 職員・ 従業員	男女計	-	(012) (012)	
	男	-	(012) (012)	
	女	-	<u>(111)</u> (012)	(211) (211)
非正規の 職員・ 従業員	男女計	LS2020.4	(211) (111)	
	男	LS2020.4	<u>(012)</u> (012)	(012) (111)
	女	LS2020.4	(211) (012)	
完全 失業者	男女計	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	(210) (011)	
	男	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	<u>(012)</u> (012)	(210) (011)
	女	RP2008.10-2009.3 RP2020.4-2020.8	(012) (011)	
非労働力 人口	男女計	LS2011.3 LS2020.4	(012) (212)	
	男	TL2020.4-2020.6	(012) (212)	
	女	LS2011.3 LS2020.4	(012) (012)	
完全 失業率	男女計	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	(210) (011)	
	男	RP2008.10-2009.7 RP2020.3-2020.10	<u>(012)</u> (012)	(210) (011)
	女	RP2008.10-2009.3 RP2020.4-2020.8	(012) (011)	

注) 下線は前年からの追加・変更箇所

- ・上表のモデルの選定には1993年10月から2022年9月まで(正規の職員・従業員及び非正規の職員・従業員は、2013年1月から2022年9月まで)の原数値を用いた。
- ・ARIMAモデルについては、階差次数・季節階差次数はそれぞれ1に固定し、他の次数は2以下の範囲内でAIC(赤池情報量基準)の最小となるモデルについて、各次数の統計的な有意性を確認した上で選定した。
- ・季節変動を算出する際の外れ値の管理限界は、 $9.8\sigma \sim 9.9\sigma$ としている。
- ・曜日・休日調整及び閏年調整は、行っていない。